

8. ハサミムシ目

現地調査では、松村雄・渡邊忠雄の両氏から御協力をいただいた。また、栃木県立博物館の中村剛之、とちぎ昆虫愛好会会員の園部力雄の両氏には同定の労を賜った。心から感謝申し上げる。

(1) ハサミムシ目の生息状況

栃木県内からは、園部（2003）により4科11種のハサミムシ類が記録されている。

本調査では、文献記録を含め2科4種が確認された。このうち、文献記録のみの種が2科2種である（表Ⅶ-8-(1)-1）。この結果、西那須野・塩原地区からは栃木県産ハサミムシ類のうち、約36%の生息が記録されたことになる。

調査期間が短かったことや近隣地区の状況を勘案すると、追加記録される可能性が高い種類も少なからずある。今後も綿密な調査が望まれる。

【表Ⅶ-8-(1)-1 ハサミムシ目の科別種数一覧】

科名※	本調査地の生息種	調査確認	(文献記録のみ)
クヌギハサミムシ科	3	2	(1)
ハサミムシ科	1		(1)
計 2科	4種	2種	(2)種

※科の分類と配列は園部（2003）に準じた。

キバネクギヌキハサミムシ・アルマンコブハサミムシは、今回の調査で山地の林床から確認された。クギヌキハサミムシ・ヒゲジロハサミムシの2種は文献記録のみである。

県内の分布を見ると、キバネクギヌキハサミムシ・アルマンコブハサミムシは広範囲に記録されているが、山地に多い傾向がある。

クギヌキハサミムシは産地が局限され記録は少ない。

ヒゲジロハサミムシは平野部で記録されているが、本種がシロアリを捕食する生態と関係している可能性もあろう。

(2) 保全すべき種

ここでは、保全すべき種として1種を選定した。なお、国内分布や生態などの解説の一部は西川（1996）に拠った。

また、「環境省レッドリスト（2007）」及び「レッドデータブックとちぎ（2005）」で選定されている種類は、種名のあとにカテゴリーを示した。

①クギヌキハサミムシ（クギヌキハサミムシ科） 環境省：一、栃木県：要注目

北海道、本州に分布する。北海道では平地でも見られるが本州では山地に多く、樹上や石の下で生活するとされる。オスのハサミは付根付近で幅広くなり、左右が内側で接近し「釘抜き」状を呈する。

調査地内では、関谷（1997年6月8日、1♀、小峯みどり）で1例が記録されている。県内では渡良瀬遊水地以外では非常に局地的な分布を示すとされる。今後の動向を把握できるよう、生息状況についての綿密な調査が必要である。

(3) 注目すべき種

注目すべき種に該当する確認種はなかった。

(文責：渡辺 剛)

【目録】

※科の分類、科・種の配列、和名・学名に関しては、園部（2003）に準じた。

※生息確認種と生息エリアは、今回の現地調査結果に基づいた。

※筆者らが未確認の種は、文献記録から引用した。

科名	和名	学名	A 地域	B 地域	C 地域	山岳 地域
ハサミムシ目						
クギヌキハサミ ムシ科	キバネクギヌキハサミ ムシ (キバネハサミム シ)	<i>Forficula mikado</i> (Burr)				○
	クギヌキハサミムシ	<i>Forficula tomis</i> (Kolenati)			□*1	
	アルマンコブハサミム シ (ルイスコブハサミ ムシ)	<i>Anechura harmandi</i> (Burr)			○	○
ハサミムシ科	ヒゲジロハサミムシ	<i>Gonolabis marginalis</i> (Dohrn)		□*1		

【参考文献・引用文献】

※目録に引用した文献は、末尾に*を付している。

平嶋義宏・森本桂監修，2008. 新訂 原色昆虫大図鑑 第Ⅲ巻（トンボ目・カワゲラ目・バッタ目・カメムシ目・ハエ目・ハチ目 他）. 北隆館，654pp.

環境省，2007. 昆虫類レッドリスト. 絶滅危惧種情報，環境省ホームページ.

西川勝，1996. ハサミムシ・ガロアムシ目. 日本動物大図鑑 第8巻 昆虫Ⅰ. 平凡社，pp. 118-120.

園部力雄，1998. 11 ガロアムシ目・バッタ目・ハサミムシ目・カマキリ目・アミメカゲロウ目・シリアゲムシ目・ハチ目アリ科. 黒磯市動植物実態調査研究会（編）. 黒磯市動植物実態調査報告書. 黒磯市動植物実態調査研究会，pp. 404-412.

園部力雄，2003. ハサミムシ目 Dermaptera. 栃木県自然環境基礎調査 とちぎの昆虫Ⅰ. 栃木県林務部自然環境課，pp. 132-134. *1

栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館編，2005. レッドデータブックとちぎ. 栃木県，898pp.